探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：布野中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
三次市立布野小学校	６	５４
三次市立布野中学校	４	２１

（R5.12.1現在で記入）

１　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

○テーマ　対話を通して主体的な学びを深める授業の在り方
―生活科・総合的な学習の時間における
評価の在り方に関する研究を通して―

○ねらい（研究仮説）

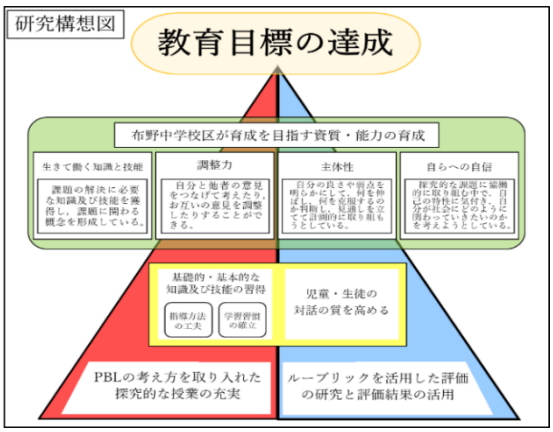
PBL（プロジェクト型学習）の考え方を取り入れた探究的な学習を充実させるとともに，ルーブリックを活用した評価の在り方を研究して指導に生かせば，児童生徒たちの探究は対話を通して主体的に学びを深めるものとなり，本中学校区が育成を目指す資質・能力を育成することができるであろう。

（２）資質・能力の設定について

指導上の課題に挙げた内容を受けて，本学区が育成を目指す資質・能力(以下，資質・能力とする)を以下のように設定した。

主として対応している資質・能力	本学区が育成を目指す資質・能力
知識及び技能	生きて働く知識と技能
思考力，判断力，表現力等	調整力
学びに向かう力，人間性等	主体性
	自らへの自信

（３）取組について



【令和５年度研究構想図】

探究を充実させるために，次の４点を柱とした。

①PBLの考え方を取り入れた探究的な授業

布野中学校区探究活動モデルをもとに，各学年で児童生徒の資質・能力を育成するために効果的な単元を作成している。探究活動を４つのphase（段階）に分け，児童生徒が主体的に学習を進めている。

②ルーブリックを活用した評価

布野中学校区オリジナルカリキュラム（小中９年間を４つの段階に分け，それぞれの発達段階毎に資質・能力が育成された具体的な姿を整理したもの）をもとに，系統的に資質・能力を見取っていけるよう，それぞれの学年でルーブリックを作成している。教師は形成的評価に活用し，児童生徒は振り返りに活用することで自分の資質・能力の高まりを確認している。

③対話の充実

聴き手による「おたずね」を大切にした対話を進めることで，児童生徒に新たな視点を持たせたり，新たな課題を見出させたりしている。対話により得られた情報や視点をもとに，児童生徒は考えを修正・発展させ，見方・考え方を深めている。そのことにより主体的に探究を進めている。

④“本物”の探究

地域の多様なひと・もの・ことと出会うことで児童生徒の世界を広げるため，社会に開かれた教育課程を創っている。コミュニティスクールとして，学校運営協議会等の協力を得て，地域の方と協働しながら児童生徒は探究を進めている。

２　実践事例

○布野小学校の実践

○対　象　　第３・４学年（２学級１５名）

○単元名　　来てみて布野！
～伝えたい！布野の自まんを長江小に～

○目　標

尾道市立長江小の児童との交流会で布野の紹介をすることを通して，布野に「行きたい！楽しい！また来たい！」と思ってもらえるようにするためには，布野の誇れることを理解し，地域の方と協力できないか主体的に考えるとともに，郷土愛や自分自身の成長を感じることができる。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

昨年度の２年生は，生活科の町探検で学習した事を「ふのマップ本」としてまとめ，３年生は，アスパラを栽培し，嫌いな人も美味しいと言ってくれる「レシピ本」を作成した。

Phase①では，児童にとって初めての複式学級である為，昨年度のお互いの学びを交流し合った後，今年度はどんな学習にしていくかを話し合った。毎年３年生がアスパラ栽培，４年生が長江小学校との交流会を行っており，「今年は両方引き継ぎたい！」という児童の願いから，「長江小の人にぜひ行きたい！楽しい！また来たい！と思ってもらえる布野にしよう！」というゴールが決まった。

Phase②では，学習計画を立てる為に，交流会の日程から時間を逆算して，活動時間数を確認した。そして，「歌人中村憲吉を紹介するグループ」「アスパラ料理を開発・提供するグループ」「布野に公園を作るグループ」に分かれ，それぞれが計画を立てた。ここからは，「布野に公園を作るグループ」に焦点化して紹介する。

phase③では，布野にある２か所の公園についてメリットとデメリットを比較し，どちらの公園を改良するか対話を通して考えた。その後，遊具の設置やお金の調達方法などについて自分たちの思いやアイデアをまとめ，校長先生にプレゼンした。しかし，資金に関することから提案は却下され，強く落ち込んでしまった。指導者は，うまくいかないことも本物の探究活動には必要だと考え，「これまでの経験を生かして，もう一度自分たちにできることを考えてみよう！」と声を掛けた。すると，「布野の自慢はまだある！」と立ち直った児童たちは，再度他の観光スポットへ調査に出向いた。その際，地域の方のアドバイスにより，動画を作って伝えることに決まった。どうすれば「布野に行きたい！」と思ってもらえるのか考え，実際にお客さんにインタビューをしたり，PR動画を撮影したりした。そして，動画編集，布野の良さが伝わるキャッチコピーや布野マスコットキャラクターを考え，QRコード付きのパンフレットを作成した。

Phase④では，パンフレットを手に，長江小との交流会で，一人一人が布野に来てほしいという思いを込めて伝えた。その後は，これまでの探究を振り返り，自らの成長を実感したことで，それを２分の１成人式で披露したいという思いに変わり，現在主体的に準備を行っているところである。

○布野中学校の実践

○対　象　　第3学年（1学級7名）

○単元名　　地域について学んだことを発信しよう
～地域をより良くするために自分たちができることを考えて実行しよう～

○目　標

インタビューで地域の課題について調べたり，地域や社会で活躍する人たちと協働したりしながら，アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に採用してもらうための提案方法を考え，実行していく活動を通して，地域の課題を解決するための方法について理解し，よりよい提案方法について考えるとともに，地域や社会のために自分ができることを実行していくための見通しを立てることができるようにする。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

昨年まで生徒たちは布野を多くの人に知ってもらうために，小学３年生での学習をふまえ，布野の特産品であるアスパラガスを餡に練り込んだアスパラ生クリーム大福を和洋菓子店と共同開発し販売プロモーション活動を行ってきた。

phase①では，生徒たちは昨年度の振り返りから対話を進め，布野に暮らす人々が困っていることを調査し，解決方法を考え三次市役所に提案することにした。提案内容を実行するための資金に，アスパラ生クリーム大福をふるさと納税の返礼品に登録し税収を増やすことを考えた。

phase②では，生徒たちは限られた時間を効率的にやりくりしていくために活動計画を立てた。広島市で活動するという案について，初めは，提案資料作りに時間をかけるべきという意見が多数派だったが，「三次市以外の人にインタビューして，返礼品に申請してくれる人の割合が分かれば提案に説得力が出る」という意見から行うことに決まった。提案資料作りにも時間をかけられるように，作業を分担して行えるよう活動計画を立てていった。

phase③では計画を実行していった。布野の人々に，何に困っているのかインタビューすると，バスの便が少なく交通の便が悪いという声が多かったため，交通利便性の向上について考えていくことにした。また，アスパラ生クリーム大福が返礼品として魅力的であるかを調査するため，広島市での活動準備も進めた。その後，文化祭で提案内容の賛否や，交通利便性以外に困っていることはないか調査を行った。調査結果を分析する中で，「文化祭に来た人の意見だけでよいのか」という問いが生まれ，布野ふるさと祭りでも地域の声を集め，提案内容を修正した。

phase④では，三次市長や担当者の方に作成した資料をもとに提案を行った。現在，返礼品登録に向けて，三次市役所で検討をしていただいている。提案後の，探究活動全体の振り返りでは，「布野ふるさとまつりでデータを集めたり，市役所の方に事前にいただいたアドバイスをもとにアスパラの栄養素をまとめて提案資料でアピールしたりできたので，調整力が高まった」など，自己の資質・能力の高まりを実感している記述が見られた。中学校の卒業を間近に控え，生徒たちは，これから自分の特性をどのように社会に役立てていくべきかを考え続けている。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

○布野中学校区探究活動モデルを活用し，各学年でPBLの考え方を取り入れた探究的な単元を構想することができた。また，各教科でも探究的な学びの良さを生かすことができ，学力向上につながっている。

○布野中学校区オリジナルカリキュラムを基に，９年間で系統的なルーブリックを作成し活用している。教師は形成的評価に活用し，児童生徒は振り返りの視点として自らの成長を自覚し、次への学びの意欲につなげている。

○能動的に聴き合うポイントを意識し，対話する場面を意図的に設定することで，児童生徒が対話を通して，考えを深めたり，新たな視点に気付いたりするなど学びを深めることができた。

（２）課題

○各学年の探究活動をさらに充実させていくため，児童生徒が前年度に得た経験をふまえ、探究の過程をより発展的に遂行していけるようにする。

○PBLの考え方を取り入れた探究的な活動を，さらに各教科で実践していくことで，各教科の学びと総合的な学習の時間の学びを往還させ，児童生徒の学びを深めていく。

（３）今後の改善方策等

○布野中学校区オリジナルカリキュラムにある各発達段階での資質・能力が育成された姿をふまえて，各学年の単元を構想していく。また，実施した単元をポートフォリオとして系統的に整理していく。

○教科の目標をふまえて，PBLの考え方を取り入れた探究的な活動を各教科でも並行して実践し，児童生徒の各教科の学びと総合的な学習の時間の学びを深めていく。また，教科学習の内容と総合的な学習の時間の内容との関連付けをさらに図っていく。